

大原社会問題研究所五十年史

Ⅴ 戦後

政経ビルの新事務所

一九四六年 昭和二十一年 敗戦直後の社会的混乱、はげしいインフレーションの昂進と食糧危機の中にあつて、柏木の事務所と図書資料を失った大原社会問題研究所の再建は容易ではなかつた。所員も、そのあるものは家を焼かれ、また栄養失調に陥り、戦争の打撃はきびしく長く尾を引いた。

しかし、政治的自由の回復、労働運動の発展にともない、社会科学の研究も急激におこり、その波の中に、高野所長を中心として大原研究所の再建がすすめられた。敗戦後、高野氏宅におかれた仮事務所に、毎週一回委員会が開かれていたが、一九四六(昭和二一)年初めには新事務所の建築設計案を討議承認した。

一九四五年末、大内兵衛氏は東大経済学部に戻職し、高野氏は本年四月日本放送協会の会長に就任し、森戸氏が衆議院議員に当選した。この外、研究所関係者の多くは、学界、政界の各分野に進出し、めざましい活躍を始めた。

一九四六年春、高野氏の放送協会会長就任以来、委員会は放送会館において開かれていたが、五月初旬東京都千代田区神田駿河台二ノ一政経ビル内の一室を借りて、そこに新事務所を設けることができた。この事務室の借用に当っては、当時政経ビルの管理者であつた政治経済研究所所長末弘巖太郎博士の好意ある斡旋があつた。五月一四日には、その事務所で、久留間、森戸、大内、三宅(晴輝)、鈴木(鴻一郎)の諸氏が会合を催し、所の今後の事業、新事務所の建築、所員の充実などについて協議した。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)